

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No243

溝上研究室・リアセックキャリア総合研究所主催

第8回教学マネジメント実践事例セミナー(2024年1月30日実施)

## FD推進の原点に立ち返り、形式化した教学マネジメント体制を見直すー国士舘大学の事例(ダイジェスト版)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長  
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>  
E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

\*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

～ 溝上慎一 と大学教育について考える ～  
「教学マネジメント」実践事例セミナー 第8回

(主催) 溝上研究室・リアセックキャリア総合研究所

**日時** 2024年1月30日(火) 16:30～18:00 **定員** 500名  
※申込先着順  
**開催方法** オンライン配信 (Zoomウェビナー) **参加対象** 大学・短期大学等 教職員  
高校・高等専門学校 **参加費** 無料

セミナー企画趣旨・主催者挨拶

ご好評につき、第8回「教学マネジメント」実践事例セミナーの開催に至りました。今回は積極的なFD活動、各ステークホルダーに対する調査やアセスメントの実施、その結果を活用した教育改善に取り組まれている国士館大学様よりお話を頂きます。特に今回のセミナーで注目すべき点は、「FD活動」に関する取り組みです。授業手法の研究や共有、教員間の連携を深めていくためにも、FD活動は必要不可欠な取り組みと言えます。学生も参画した同大学の事例は、他の大学にとっても多くの参考になると考えています。本セミナーが各大学・短期大学等における教学マネジメントの在り方を考え、今後の高等教育の在り方についての示唆を提供する場となることを祈念しております。



学校法人桐蔭学園 理事長  
桐蔭横浜大学 教授  
溝上 慎一 氏

▼当日のタイムスケジュール・事例発表概要

16:30～16:40 (10分) 開会・溝上慎一によるオープニングセッション  
16:40～17:10 (30分) 事例発表  
17:10～17:40 (30分) 溝上慎一による事例発表への講評・質疑応答  
17:40～17:50 (10分) 溝上慎一による解説・まとめ(クローゼット)  
17:50～18:00 (10分) リアセックキャリア総合研究所からのお知らせ



国士館大学  
副学長  
FD委員会委員長  
文学部 教授  
長谷川 均 氏



国士館大学  
学長室長  
法学部 特任教授  
入澤 充 氏



国士館大学  
学長室 FD推進課  
課長代理  
丹 奈緒美 氏

■学生の成長を目的とした積極的な全学FD活動の推進  
✓ 専任教員全員参加の全学FD活動の展開  
✓ 学生参画を促進し、FD活動を効果的な授業手法研究の一環として推進  
✓ FD活動の内容をリーフレットにまとめ、学生への啓発活動を展開

■調査・アセスメント結果の可視化と教育改善への活用  
✓ 「KOKUSHIKAN UNIVERSITY IR Data Book」を通じて、学内外に積極的な情報公開を実施  
✓ アセスメント結果、KOKUSHIKAN UNIVERSITY IR Data Bookを活用した授業改善の事例

▼お申し込み方法

■下記URL、またはQRコードからアクセスの上、専用フォームからお申込みください。

<https://00m.in/j0P7p>



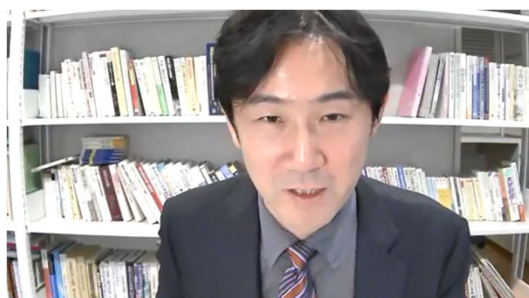
「教学マネジメント」実践事例セミナーに関するお問合せ先  
株式会社リアセック seminar@riasec.co.jp



国士館大学におけるFD推進の取り組み  
—授業手法の研究や共有、教員間の連携と学生の参画の試み—

国士館大学FD委員会委員長・副学長 長谷川 均  
国士館大学学長室長 入澤 充  
国士館大学学長室FD推進課課長代理 丹 奈緒美

- FDerの設置・育成
- 新任研修（3年）
- 学生参画型FD
- DPを踏まえたシラバス・授業づくり
- アクティブ・ラーニング など



それではダイジェスト版を  
ご覧ください

当日のフルバージョンを視聴されたい方は  
動画下の概要欄にご案内しています

# 国士舘大学におけるFD推進の取り組み

授業手法の研究や共有、教員間の連携と学生の参画の試み

～ 溝上慎一 と大学教育について考える ～  
「教学マネジメント」実践事例セミナー 第8回  
2024年1月30日



国士舘大学FD委員会委員長・副学長	長谷川 均
国士舘大学学長室長	入澤 充
国士舘大学学長室FD推進課課長代理	丹 奈緒美

# 国士舘大学紹介

◆大正6(1917)年創立(創立106年)

創立者 柴田 徳次郎

◆大学・・・7学部、大学院・・・10研究科

◆学生数

大学 12,398名、大学院 288名

◆専任教員数 312名

<大学>

政経学部

体育学部

理工学部

法学部

文学部

21世紀アジア学部

経営学部

<大学院>

政治学研究科

経済学研究科

経営学研究科

スポーツ・システム研究科

救急システム研究科

工学研究科

法学研究科

総合知的財産法学研究科

人文科学研究科

グローバルアジア研究科





## 建学の精神

「物質文明」を統御する「精神教育」を重視し、「心身の修練」と「知徳の精進向上」を目指し、国家社会の将来を思い、世界の平和と国家社会の改革向上に貢献する人材、即ち「**国を思い、世のため、人のために尽くせる人材『国士』の養成**」を目指す。

## 教育理念

「国士」養成のため、**四徳目「誠意・勤労・見識・気魄」**を兼ね備える教育を行う。

誠意・・・真心と慈悲のところで、世のため、人のために尽くすこと

勤労・・・向上心を持って、誠実に仕事をする事

見識・・・道理のもと、物事を見抜く力をもつこと

気魄・・・信念と責任を持って強い心でやり通す力のこと

## 教育指針

四徳目を備えるには、不断の「**読書・体験・反省**」を実践し「**思索**」すること。



# 国士舘大学 ディプロマ・ポリシー

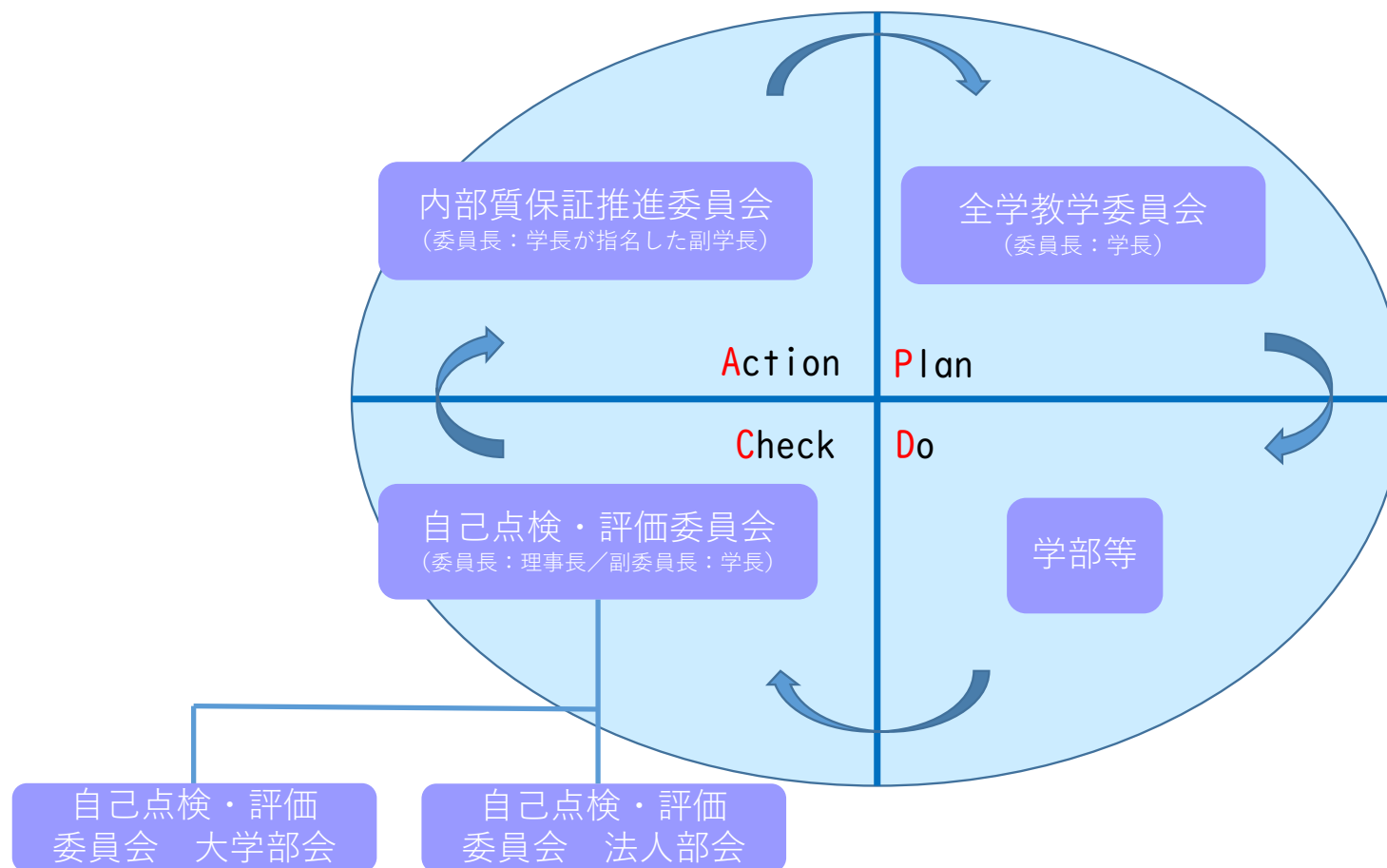
DP1. 幅広い教養と体系的な専門分野の知識・技能などを活用して、世のため人のために  
尽くし、向上心を持って誠実に仕事を行い、道理のもと物事を見抜き、信念と責任を持っ  
てやり通す力を身に付けている。  
(思考力)  
(自信創出力)  
(課題発見力)  
(行動持続力)

DP2. 人文、社会、自然などに関する事象を正しく理解し、その理解に基づいて善悪のバ  
ランスのとれた判断の下で、善なる判断を実行し、その行為を省みて、省みた内容を検討  
し、次なる目標を立案する力を身に付けている。  
(実践力)  
(計画立案力)

DP3. 公共のためを思い、国内外の情勢に関心を持って学びと研究を継続し、現実社会に  
貢献する熱意や行動力、リーダーシップを身に付けている。  
(統率力)

DP4. 様々な次元で多様性を増す社会において、他者の意見や価値観を尊重できる人格と、  
多様な他者を理解し協働していく力、コミュニケーション力を身に付けている。  
(親和力)  
(協働力)

# 国士舘大学 内部質保証体制





# 学長室の構成と役割



- ◆ 学 長 課：教学全体を統括し、企画・運営を担当
- ◆ FD推進課：教員の授業改善、開発、教員研修等を企画・運営
- ◆ I R 課：国士館における教学、学生生活等々のデータを集積、分析、データ提供

# IR課が行っている主な調査等

新入生調査	志望動機、卒業後の進路、学習環境や内容
在学生調査	学習環境や内容、学習時間、満足度、卒業後の進路等々
卒業時調査	学生の主体的学び、大学から提供される学び、身につけている力、キャリア設計等
卒業生調査	卒業3・7年後の卒業生を対象。在学中の学修、学生生活の満足度等
企業調査	企業が大学卒業時に学生に求める資質、能力、知識等々の基礎データ
PROGテスト	2020年度から実施。現在は1年生と3年生で行っている
KOKUSHIKAN UNIVERSITY IR Data Book	大学の基礎情報（学生数、入試状況、卒業者数等）を学内外に公開

- ◆ 全調査結果は、学部長会等で報告し、各学部教授会で全教員に周知するようにしている
- ◆ 学生からの改善・要望等の回答については、担当部署に通知、対応を促している
- ◆ PROGテスト結果は、全学教学委員会で共有、学生と教員へ説明会を実施している

# PROGテストの導入

◆2020年度入学生から実施

対象：1・3年生

◆国士舘大学志望者の傾向を把握

# 本日の話の流れ

1. FD委員会のあゆみ
2. 専任教員FD参加率100%を目指して
3. 学生参画型FDの実施
4. IRデータを基にした授業改善
5. 今後の課題・展望

# 1. FD委員会のあゆみ



## ～FD活動に関する文科省の動向と学内の体制構築～

### ～文科省の動き～

1998（平成10）年 10月	「21世紀の大学像と今後の改革方策について」（大学審議会答申）
1999（平成11）年 9月	大学設置基準においてFDが努力義務
2005（平成17）年 9月	「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」（中央教育審議会答申）
2007（平成19）年 4月	大学院設置基準においてFDが義務化
2008（平成20）年 4月	大学設置基準においてFDが義務化

### ～学内の動き～

2008（平成20）年10月1日	FD推進室（現 学長室FD推進課）設置
2009（平成21）年4月1日	国土館大学FD委員会 制定

# FD委員会の構成 (令和5年度)

- FD委員 (29名)

  - 委員長 . . . 副学長

  - 委員 . . . 学部・研究科・附置研究所より選出1名、  
学長室長、教務部長、教務部事務部長、  
学長推薦 (FDer)

    - \*FDer . . . 愛媛大学主催のファカルティ・ディベロッパー養成講座を  
受講された先生

- ☆FDer (14名)

  - 各学部・附置研究所に1～2名配置。

FD委員会の内容は、  
各学部教授会等で報告され、  
共有されている。

# 本学におけるFD活動年間スケジュール

	開催日	
第1回FD委員会	2023年5月27日	
第2回FD委員会	2023年7月15日	☆第29回FDシンポジウム
第3回FD委員会	2023年9月30日	
第4回FD委員会	2023年11月25日	☆第10回FD研修会
第5回FD委員会	2024年1月27日	
第6回FD委員会	2024年3月16日	☆第30回FDシンポジウム


# 本学のFDの取り組み

## ①FD委員会主催

1. FDシンポジウム（年2回）
2. FD研修会（年1回）
3. 授業公開・授業参観（春期・秋期）
4. 新採用教員研修（4月・6月・10月）

## ②各機関

\*各機関独自で行うFD

 : 学長室FD推進課で参加状況確認

# 全学対象FD企画一覧 (2021～2023年(令和3～5年)度開催)

第25回FDシンポジウム	2021年6月26日	ハイブリッド型授業実践報告会～新たな授業スタイルの構築に向けて～
第2回FD・SDシンポジウム	2021年9月11日	修学に配慮を要する学生対応
第3回FD・SDシンポジウム	2022年1月29日	狙われる大学生～学生を守るために教職員ができること～
第26回FDシンポジウム	2022年3月12日	令和3年度FD委員会の取り組みと令和4年度新たな授業構築に向けて
第27回FDシンポジウム	2022年7月16日	ハラスメントのないキャンパスを目指して
第9回FD研修会	2022年10月29日	ナニ！？ ソレ！？ アセスメント・テスト
第28回FDシンポジウム	2023年3月11日	令和4年度FD委員会の取り組みと令和5年度から始まる新たな教育
第29回FDシンポジウム	2023年7月15日	生成系AI. 教育・研究の未来
第10回FD研修会	2023年11月25日	コンピテンシーの成長を導くPBL型授業～学生の声～

学生が参加したFD企画



## 2. 専任教員FD参加率100%を目指して

# コロナによるFD活動の変化

## <コロナ以前>

- 実施方法：対面
- 外部講師に講演依頼
- 定例学部長会・研究科長会・附置研究所長会でFD活動推進依頼

## <コロナ以降>

- 実施方法：オンライン
  - 子育て、介護などで対面で参加が困難な先生も参加可能！
- 外部講師に頼らず、専任教員が講演者
  - 総合大学の強みを活かし、教員とのコミュニケーションでテーマや講演者を決定！
- <令和3年度より導入>事後動画視聴申込
  - クラブ指導者や校務等で参加できない教員も参加可能！
- 定例学部長会・研究科長会・附置研究所長会でFD活動推進依頼（継続）
- 定例学部長会・研究科長会・附置研究所長会で専任教員参加状況（学部毎の参加率）を報告

### 3. 学生参画型FDの実施

# 学生が参画したFD企画の一例 ～第9回FD研修会～

開催日時：2022年10月29日（土）13：30～16：15

テーマ：ナニ!?ソレ!?アセスメント・テスト

プログラム：

第Ⅰ部 アセスメント・テストとは

第Ⅱ部 ジェネリックスキルとは

第Ⅲ部 **パネルディスカッション**

テーマ「アセスメント・テストを受験し成長度の高い学生が自らの成長を実感した授業」

パネリスト：理工学部・法学部・文学部の**学生**と学生自身が最も影響を受けた授業の**教員**



# 第9回FD研修会に登壇した学生の声をリーフレットに



**成長した学生から学ぶ、  
有意義な大学生活を過ごす  
3つのコツ**

2022/10/29 第9回FD研修会より



## 取材で見えてきた 成長のための3つのコツ

2022年10月29日に実施した教職員向けFD(教育内容・方法等をはじめとする研究や研修)にて、登壇してくれた3名の学生に、大学生活で自分自身を成長させるコツを追加で取材しました。

※3名の学生は、ジェネリクススキル測定PROG(1年次・3年次実施)で高い成長の3名を選出しています。  
※PROG(プログ)について：株式会社・リサーチ社で共同開発。2012年にリリースし、学生の社会から求められるジェネリクススキルを測定。測定レベルは7段階で、大学生平均は3〜4、4以上は社会で期待されるレベル。

### PROG(プログ)とは

学校法人河合塾と株式会社リサーチが共同開発した社会で求められる汎用的な能力を測定するアセスメント・テストです(毎年約300校で導入)。

本学では、このアセスメント・テストを導入することで、学生の成長を可視化し、教育改善に活かすことを目的としています。また、1年次には自分の強みや苦手を理解し、大学生活を有意義に過ごすことを考えさせ、3年次には1年次からの自己成長を振り返り、就職活動に役立てることを目的としています。

#### リテラシー 問題解決のために思考する力

項目	得意な学生
情報収集力	幅広い情報から必要な情報を抽出し、適切な手段で情報を収集・整理し、活用する能力(読書・インターネット活用)
情報分析力	様々な情報から必要な情報を抽出し、その本質を捉える能力(分析・整理)
問題解決力	様々な状況から必要な情報を抽出し、適切な手段で問題を解決する能力(分析・整理)
読解力	様々な状況から必要な情報を抽出し、適切な手段で問題を解決する能力(分析・整理)

#### コンピテンシー 問題解決のために行動する力

項目	得意な学生
対人調整力	対人関係の構築・維持・改善する能力(コミュニケーション)
協働力	協働を推進し、目標を達成する能力(チームワーク)
読解力	読解を推進し、目標を達成する能力(チームワーク)
読解力	読解を推進し、目標を達成する能力(チームワーク)

### ロールモデルから学び、 困難にも積極的に取り組むことが 成長の秘訣

理工学部理工学科3年 R.Kさん(男性)

私が成長するための秘訣は、「ロールモデルを見つけて、模倣し続けること」です。母が経営する会社で働く中で、仕事に対する多くの話を聞いてきました。その中で「ロールモデル」は多く学びがあり、将来的にも積極的に進める姿勢が芽生えました。

大学での学びも、6名のグループメンバーと共に、15回の授業でレポートを作成する実践的な授業に参加しました。この授業では、授業だけでなく実際にものづくりを通して学ぶことができました。グループメンバーには、積極的な学生もいれば消極的な学生もいましたが、チームの活性化のためにはどのように進めていくか、良い作品を作るためにはどのような工夫をするか、メンバーと話し合いながら完成まで取り組むことができました。このように、何事にも積極的に取り組むことが自分の成長につながると思っています。

### 難しい専門用語も、 具体例や受講生の多様な意見を 聴くことで思考の幅が広がった

法学部現代ビジネス法学科3年 S.Kさん(男性)

私が感じる成長のコツは、「多様なメンバーの意見を聞くこと」。新しい見方や考え方を学ぶことです。例えば、専門的な用語の言葉が難しく理解が難しくなりましたが、先生が具体例を用いて学説を説明してくださったおかげで、頭にイメージしながら学ぶことができました。また、受講生の意見を聴くことで、自分の思考が広がり、新しい考え方を学ぶことができました。抽象的なことでも、具体例や意見を聴くことで理解を深めることができると思います。その後の授業でも役立つと思います。多様な人々と交流し、思考の幅を広げることは、成長の上で大変なことです。常に新しい刺激を受け、自分の思考を広げながら成長していきたいと考えています。

### 先駆から学ぶコツ

先駆から学ぶコツ

先駆から学ぶコツ

先駆から学ぶコツ

### 先駆から学ぶコツ

先駆から学ぶコツ

先駆から学ぶコツ

先駆から学ぶコツ

<配布・公開>

- ・1年生：アセスメント・テスト受験時
- ・学内主要会議体
- ・大学ホームページ

発行：学長室IR課



# 第10回FD研修会

開催日時：2023年11月25日（土）13：00～15：45

テーマ：コンピテンシーの成長を導くPBL型授業～学生の声～

プログラム：

第Ⅰ部：PBL型授業とは

第Ⅱ部：PBL型授業実践報告

（ゼミナールで実施している事例／ゼミナール以外で実施している事例）

第Ⅲ部：パネルディスカッション

パネリスト：第Ⅱ部で報告された授業を履修した学生・第Ⅱ部講演者（教員）

# 4. IRデータを基にした授業改善

- 国士舘大学法学部「スポーツ法学」での実践 -

## プログテスト結果を受けての授業「スポーツ法学」の改善

- ◆リテラシーとコンピテンシーを向上させる
- ◆春期（前期）は、ケース研究を行い、問題発見、情報分析、課題解決について学生に問う方式にした
- ◆秋期（後期）は、スポーツ活動中で発生する諸問題を「質問」形式に構成し、学生が質問回答を作成する方式にした
- ◆春期・秋期の授業を通して、学生全員が自分の考えを述べることができるように配慮した

受講後学生から  
寄せられた声

私はスポーツ法学の講義を通じて、多くのスポーツ事故の事例に触れる中で、法律という規範がある一方で、社会で発生する事案は多種多様であることから、時に判断が難しい問題もたくさんあるということを感じました。同時に、それは物事を多面的に捉え、あらゆる可能性や、事故であれば当事者の立場を考慮することの重要性を学ぶことに繋がりました。

(小学生の時から憧れていた警視庁警察官に合格した学生)

## 全ての授業終了 後に寄せられた 感想

私はスポーツ法学(スポーツと文化)、(スポーツ事故と法)の講義を受講することを通じて、事例に対して自らがこれまでに得た知識や見識、自らの根拠ある考えのもと、最善の解決策を検討していく重要性について、改めて学ぶことができました。また、スポーツ事故の事例について学びを深める中で、スポーツ事故が発生した際の法的な見解、事故後の被害者の立場に触れ、いかにして事故が発生する前の未然の対策を進めていくことで、二度と同様の事故発生や被害者を出さないためには何が重要であるか考える機会が多くありました。問題点を発見し、その問題点を解決するためにはどのような解決策が重要であるかを論理的に導き出す力、またそれは自ら処理できるようにするだけでなく、他者へも分かりやすく説明できる力が今後より重要になると考えます。将来に向けて、残り少ない大学生活ではありますが、これまで学んだことを最大限活かせるよう準備していきたいと考えます。



## 5. 今後の課題・展望

# 今後の課題・展開

## 学科・コース・学系推薦！“イチオシ授業”を研修会・シンポジウムで公開！（委員長発案🌟）

（現状・課題）

- ・授業公開・授業参観を春期・秋期に実施しているが、自身の授業と同時刻開催などで、参観できる機会が少ない。

（今後の展望）

- ・研修会やシンポジウムの機会に、学科・コース・学系から推薦いただいた“イチオシ授業”を短時間で授業公開していただき、新たな授業手法、学科・コース・学系の学びを知る👁👁

## 学修者目線に立ち、満足する授業を提供する！

（現状・課題）

- ・FD活動は全学的に定着しつつあるが、学生調査から授業に関する満足度がそれほど高くない。

（今後の展望）

- ・学生から「国士館に来て良かった」「国士館で学んだことが社会に出て活かされた」と、言われるように、IR調査を活用してFD企画を実行していく。

## アクティブ・ラーニングの普及活動！

（現状・課題）

- ・アクティブ・ラーニングには様々な手法があるが、教員自身がアクティブ・ラーニングを取り入れていることに気づいていないケースがある。

（今後の展望）

- ・アクティブ・ラーニングの事例を共有し、授業改善に役立ててもらおう。